

## 朗読を聞くことで変容した子どもたち

—4年「お母さんのせいきゅう書」の実践を通して—

中村 絵里



## 1. 資料について

ブラッドレーの家族愛とお母さんの家族愛とを対照的に描いている資料である。

ブラッドレーは、家の手伝いをしたことに対して報酬を得ようとするが、お母さんは家での仕事をして報酬を得ようとは思っていない。

無償の愛に立った親の心を分からせるためのよい資料である。また、この資料を通して、自分の家族について考えさせたり、自分が家族のために何ができるのかを考えさせたりすることもできる。

## 2. 授業のねらい

親は自分たちのために仕事をしてきている。このことは子どもたちにとって当たり前すぎて、そこにある思いを感じたり考えたりすることは少ないと思われる。そこで、ブラッドレーとお母さんの考えを比較させながら「親の無償の愛」について知り、そこから「自分も家族のために尽くそう」とする意欲をもたせることをねらいとした。

## 3. 「デジタル道徳」を活用した授業の実際

## (1)「デジタル道徳」の朗読のよさ

道徳の授業では、資料を教師が範読することが多い。しかし、教師の範読には、どうしても教師自身の感情が入ってしまう。一方、「デジタル道徳」の朗読には、そのような感情の入れ込みがない。そのため、子ども自身が読みの抑揚にとらわれずに、自分の考えをもつことができると考えた。

教師が資料の範読を行うと、範読を聞いているときの子どもの表情を全て把握することが難しい。「デジタル道徳」の朗読を活用することで、子どもの表情をしっかり見ることができ、資料のどこに子どもたちが引かかっているのかを把握することが可能になる。

また、「デジタル道徳」の朗読では、音声と共に副読本に載っている挿絵が表示される。絵を見ながら音声を聞くことで、子どもたちは場面把握をしっかりと行い、資料(副読本)が手元になくても、

内容を理解することができる。さらに、手元に資料をもたないことで、子どもたちは表面的な言葉だけにとらわれずに考えを深めることができる。

「デジタル道徳」を使用することには、このようなよさがあるのではないかと考えた。

## (2)朗読を活用して—授業者の視点から—

「デジタル道徳」で資料の朗読を聞く際、クラス全員がテレビ画面に視線を向け、いつも以上に授業に集中していた。普段は教師の範読であるため、いつもと違う授業の始まりに新鮮さを感じていたことも、授業により集中できたことの一因ではないかと思う。

授業の中では、朗読を聞かせている間に子どもたちの様子や反応をしっかりと把握することができた。そして、子どもたちの引かかっている部分をもとにして授業を展開した。

今回の資料では、子どもたちはお母さんからブラッドレーへの請求が0セントであった場面に引かかっており、その場面の朗読を聞きながら、驚いた表情を浮かべたり、「なんでだろう?」と悩んでいるような表情を浮かべたりする姿が多く見られた。そのような表情の変化をもとに、「何に驚いていたの?」「何に悩んでいるの?」と発問することで、子どもたちはより登場人物と自分自身を重ねながら考えることができていた。

## (3)朗読を活用して—子どもたちの変容—

4月の頃の本学級の道徳の授業では、子どもたちは自分の生活に置き換えて意見を出すことはなく、「資料に〇〇と書いてあるから」「主人公が〇〇と言っているから」という表面的な意見が多かった。

5月初旬に行った本実践では、「デジタル道徳」の朗読を活用し、手元に資料を置かずに授業を行った。すると、子どもたちから表面的な意見ではなく、ブラッドレーと自分自身を重ねた意見が多く出た。これは、資料が手元になく、表面的

な言葉だけにとらわれずに考えを深めることができたからだろう。

さらに、子どもたちはこの授業をきっかけとして、道徳では資料と自分とを重ねながら考えていくということを学んだ。今では、資料が手元にあっても「ここに〇〇と書いてあるから」などという表面的な理由だけの意見を言う子はなくなった。

子どもたちの感想にも変化が表れた。本時以前は、単なる資料(お話)の感想や、「〇〇が分かりました。□□していきたいです。」という表面的な感想が多く見られた。しかし、資料と自分を重ねて考えることができた本時では、感想も自分の生活に立ち返り、振り返る内容のものが多くあった。

文章の量にも違いが表れており、それまでは2・3行で感想を書き終える子が多かったが、1ページ以上書く子どもが増えた。

## [子どもの感想]

わたしは、お母さんやおばあちゃんがお皿洗いやせんたくをするのは当たり前だと思っていました。でも、今回の道徳でお母さんやおばあちゃんに支えてもらっているのだと気づきました。今日帰ったらお母さんとおばあちゃんに「いつもありがとう」とお礼を言いたいです。

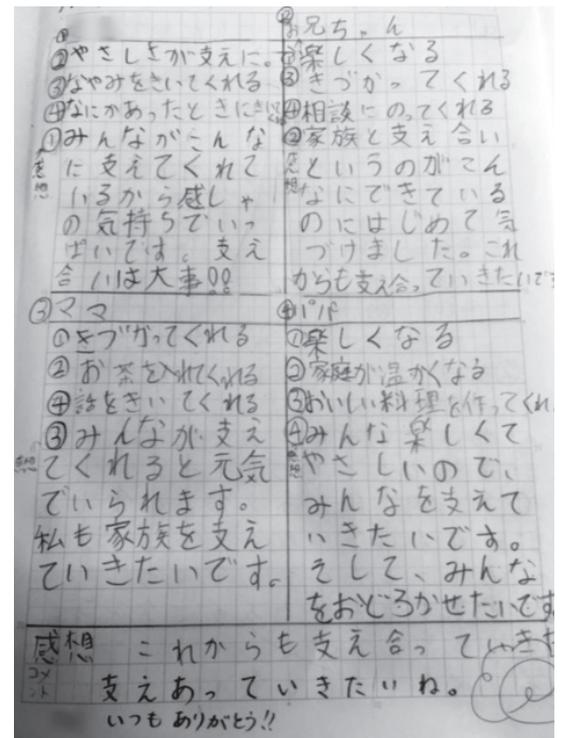
今日たくさんの方が分かりました。①お母さんやお父さんは家族のために働いている。②思い合い、支え合う家族はすごくよい家族。③私の家族も支え合っている家族だった。④私にもできることがある。この4つです。ブラッドレーもきっとこれに気づけたのだと思います。私ももっとお手伝いをして家族の支えになっていきたいです。

今まで当たり前すぎて考えたことがありませんでした。今日考えてみると、お母さんは、たくさんぼくを支えたり守ったりしてくれていると思いました。とてもうれしいなと思いました。

自分ももっともっとお母さんを支えたり守ったりしていきたいと思いました。

## [実際の子どものノート]

本時をきっかけに、後の自主学習で自分の家族について考えてきた子がいた。家族にインタビューをした結果を下記のようにまとめていた。



## 4. 「デジタル道徳」を使った授業の成果

道徳は、資料を通して自分自身について考えることが大切である。しかし、本学級の子どもたちは表面的な言葉だけにとらわれすぎて、資料を自分の生活や経験と重ねて考えられる子が少なかった。このような子どもたちの実態から、今回は「デジタル道徳」の朗読を活用した授業をしようと考えた。

そして、資料を手元に置かず、朗読を活用したことで、表面的な言葉だけにとらわれずに考えを深めさせることができた。この授業以降、子どもたちは資料が手元にあっても、資料を自分の生活や経験と重ねながら考えを深めていけるようになった。「デジタル道徳」の活用が、教師・子どもの双方に新しい面を発見するきっかけとなった。